



今ここにある“多様性”との対話
～「みんな違って、みんないい」ってなんだろう～

第2回 研究部会

府立人研だより

大阪府立学校人権教育研究会事務局
2023年9月22日 第8号発行

10月13日(金)14時より 府立市岡高等学校

教材部会	進路保障部会	ケーススタディ部会
<p>人権教材体験を通じた 意図的なかかわりの研究 ～今後の学びにつなげるために どうすればよいかを考えよう～</p>	<p>卒業後の進路定着につなげる 進路保障の考察 ～「未来の大人」である児童生徒へ 「いま」のうちに伝えたいこと～ 報告：府立堺工科高等学校 定時制の課程 府立福井高等学校</p>	<p>学習に課題を抱える児童生徒を エンパワメントする学校・教職員のあり方 講師：前馬 優策 さん (広島経済大学 准教授)</p>
<p>今年度の教材部会は“人権教材を体験してみよう！”というテーマで活動しています。今回は、いろいろな人権課題について理解を深める学習の導入として位置づく教材（アクティビティ）を、参加者が生徒役となって体験します。あえて理不尽な状況を体験することを通して、人権について主体的に考えることをねらいとした教材です。教材の意図を読み取り、「子どもの人権」について深い理解につなげていくためには、どのような学びのしかけをしていくべきなのか、グループワークや全体討議を通じて考えていきましょう。いつものように教材交流会もします。ホームルームや教科の授業等で使用されている（または使用する予定の）人権教育教材を30部ほどお持ちください。</p>	<p>高校までの段階と卒業後の社会とのあいだには、少なからず「ズレ」が存在していると感じてやみません。「時間を守る」といった社会生活全般に関わる規範はさておき、職業によっては髪型や装飾品等の影響で疎まれるケースが実際にあります。また、様々な要因で進路先になじむことができず、苦しい思いで社会生活を送っている卒業生の話を聞くこともあります。卒業するまでに、私たちが教育活動の現場で児童生徒に「気づき」を与えるためにできること・考えるべきことはなにか。進路保障の観点から、卒業後の進路定着につなげる取り組みについて考えていきましょう。</p> 	<p>教育格差とは、生まれた場所や家庭環境によって子どもが受けられる教育の量や質が異なり、その結果として学力や学歴に違いが生じることです。日本社会では小学校入学前から学力格差がすでにあると指摘されています。しかし、かつての文部科学大臣の「身の丈」発言のように、所得の多い家庭の子どもの方がよりよい教育を受けられる傾向について、「当然だ」「やむを得ない」と容認する回答が多数派であるという調査結果があります。</p> <p>生まれてくる場所や家庭環境を選べない子どもたちに始めから格差が生じ、その格差が維持・拡大されていくという社会問題が日本の教育には根づいてしまっています。これは個人や家庭環境の問題ではなく、社会構造の問題として捉えなくてはなりません。</p> <p>学校・教職員として、この格差を克服していくためにできることはなにか。今回は、「学習者のエンパワメント」をキーワードに、</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教育実践で格差を克服する ②「よりよく生きる」ことをめざす ③格差社会を是正する主体を育てる <p>といった点について、参加者と一緒に考えていきましょう。</p> <p>※ 講師はオンラインで参加します。</p>

JR 環状線・大阪メトロ中央線
「弁天町」駅より 東南東へ約 400m



☆お願い☆

名札と上履きをご持参ください

府立人研 大阪府立学校人権教育研究会

〒533-0024 大阪市東淀川区柴島1-7-106 府立柴島高等学校内
(通送便は「府立人研」とお書きください。)

TEL・FAX 06-6324-3822 (直通) (お電話の場合は、火曜日をお願いします。)

E-Mail furitsuinken@nifty.com (お問い合わせは、なるべくメールをご利用ください。)

URL <http://furitsuinken.in.coocan.jp/>



↑府立人研 HPも
チェックしてくださいね

「府立人研だより」の掲示・配布をお願いいたします。各校の人権教育の充実にお役立ていただけましたら幸いです。